

農地管理において「草刈り」は重要な作業です。多くの農家の皆さんは、夏場を中心に草刈りを行われることもあり、負担が大きく、肉体的にも精神的にもきつい作業となっています。

農業に従事する方の高齢化や担い手不足が進み、草刈りが大きな負担となっている現在、草刈りの負担を少しでも軽減できるような方法を変更したり、回数を減らしたりするなど、工夫が必要です。

目的や場所に応じて草刈りを実施しましょう

◆畔に必要に応じて実施

草刈りの目的や場所に応じて、回数を調整することで、畔は4月(田植え前)、7月(出穂前)、8～9月(稲刈り前)など、農作業の必要に応じて適時実施しましょう。



◆のり面回数を減らす

農作業に影響の少ないのり面や水路際は年1回から2回までに回数を減らすなど、場所に応じて実施してみましょう。



「カメムシ」対策に有効な「高刈り」を試してみよう

草は「厄介者」の一面もありますが、一方で美しい草花の咲く場所であったり、害虫を食べる益虫のクモ、カマキリ、カエルなど多様な生きものがすむ場所であったりします。

また、米の代表的な病害虫被害である斑点米は、7月の稲穂のつき始め(出穂)時期の米をカメムシがエサとすることで発生します。カメムシは、主にあぜのイネ科の雑草(※1)をエサとしています。

雑草は大きく分けて、横に葉を広げる広葉雑草と縦に伸びるイネ科雑草に分かれます。地面すれすれに草を刈ると、生長点が低いイネ科の雑草が生長しやすく、カメムシを寄せ付ける原因となります。一方で、草を地面から5～10cm(野球ボール1個分ほど)の高さで刈ると、広葉雑草の草の生長点が残るため、広葉の草の生長が促され、結果としてイネ科の草の成長が抑えられ、年間の草刈りの減らすことができます。

「高刈り」をすれば、広葉の草の割合が高くなり、カメムシを捕食してくれるカエルやクモなどが住み着きやすくなります(下図)。(※1)イネ科の草：イネのように細長い葉を持った植物(ススキ、チ

草刈り作業の負担を軽減

～生きものにも優しい草刈り～

管理された田んぼの畔は農村風景を象徴するもの。農業に欠かせない草刈りはすべての農作業時間の約3割を占める重労働です。高齢化による担い手不足などを背景に管理者の負担感が増しています。また、農地にすむ生きものにとっても、畦の草は刈りすぎても放置しすぎても良くありません。

ここでは、畔の草刈りの負担を少しでも軽減できるよう、その方法について考えたいと思います。

問い合わせ 農村環境課 ☎552-5013

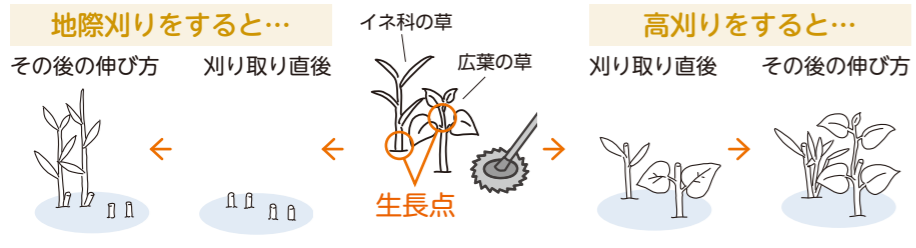


なお、7月の草刈りは出穂の時期を考慮し、できるだけ出穂の14日前までに行いましょう。出穂後にあぜの草刈りをする、イネ科の草をエサとしていたカメムシが田んぼに移動してしまい、米をエサにして斑点米を発生させます

ガヤ、オヒシバ、メヒシバ、スズメノカタビラなど)

「草刈りの高さで、優占する草の種類が変わる」

地面すれすれに刈ると、広葉の草は生長点が刈られて枯れてしまい、生長点の低いイネ科の草が優占します。「高刈り」をすると、生長点が地際より上部にある広葉の草も生き残り、かつ摘心効果でわき芽が出て広がり、イネ科の草を抑えます。



やってみよう!

エコアップ チャレンジ!!

市では、専門的な技術がなくても、農業をしながらでも、誰もが簡単にできる「エコアップ(小さな自然再生)」の取り組みに対して、資材支給や機器・道具の貸し出しを行っています。

身近な生きものを守る取り組みの積み重ねが、丹波篠山の美しい景観を支える大きな力になります。皆さんも、できることから始めてみませんか?



高刈りにチャレンジしてみよう

～ジズライザー(草刈り機に付ける機具)を貸し出します～

刈り払い機の刃先部分を地面に置いて草刈りが行えるため、労力が軽減できます。また、高い位置で草を刈るので、小石が跳ねたり、地面へくい込んだりすることが減り、刈刃を買い替える必要も少なくなり、ランニングコストを削減できます。使用に際してはアンケートの回答にご協力ください。

対象 市内で活動する団体(自治会など)

問い合わせ 農村環境課までTEL・FAX・メールでお申し込みください
☎ 552-5013 / FAX 552-0619 / メール kankyo_div@city.sasayama.hyogo.jp

「日本体育大学功労スポーツマスター」の称号を受章

丹波篠山市スポーツ振興官・長澤宏行さん



日本体育大学提供

日本体育大学の松浪健四郎(まつなみけんしろう)理事長から、「日本体育大学功労スポーツマスター」の称号を授与された長澤宏行さん(右)

高校球界の名将で丹波篠山市スポーツ振興官を務める長澤宏行さんが、母校・日本体育大学の入学式で、「日本体育大学功労スポーツマスター」の称号を授与されました。功労スポーツマスターは、体育・スポーツの競技者、指導者として顕著な功績を残した卒業生をたたえる称号で、受章者は長澤さんで15人目。これまで柔道家・古賀稔彦さんも選ばれています。

長澤さんは日本体育大学を卒業後、夙川学院高等学校ソフトボール部で指導。インターハイで不滅の5連覇を含む8回の優勝を果たしました。1996年のアトランタ五輪では、女子ソフトボール日本代表のヘッドコーチを務めました。高校野球では2003年に神村学園高等部野球部監督に就任し、わずか2年目で春の選抜大会に出場を果たし準優勝。2010年からは創志学園高等学校野球部監督として、翌年の春の選抜に出場。春夏6回甲子園出場を果たしました。2022年10月からは市スポーツ振興官に就任し、篠山産業高等学校の野球部監督も務めています。

長澤さんは、「これまでの指導者人生は山あり谷あり、いろいろなことがありました。長年、私立学校で指導をし、そしてまた、酒井隆明市長に引っ張っていただき、丹波篠山の公立校で挑戦する場を与えていただきました。この受章機会にもう一度、初心に戻ってがんばっていききたい」とその喜びを話されました。



コカ・コーラボトラーズジャパン(株)提供

少年野球団に所属。中学では地元の硬式野球チーム「ベースボールネットワーク」で活躍するも、15歳の時に急性に視力が低下する難病「レーベル病」を発症しました。高校は既に入學が決まっていた鳥取城北高校へ進学。野球部に在籍しプレーはできませんでしたが、選手兼マネージャー、応援団長としてチームの甲子園出場に貢献しました。

2017年からやり投げ競技を始めました。同年には、「2017ジャパンパラ陸上競技大会」で優勝、翌年の「第23回関東パラ陸上競技選手権大会」では当時の日本記録を樹立し優勝するなど、競技開始直後から日本のトップ選手として活躍しています。

2019年にはコカ・コーラボトラーズジャパン(株)に入社。学校や自治体向けに障がい者理解促進の講演活動も行っています。

2019年にはコカ・コーラボトラーズジャパン(株)に入社。学校や自治体向けに障がい者理解促進の講演活動も行っています。

「世界パラ陸上で1位か2位なら、今年の夏に開催の『パリ2024パラピック』への出場が確定しますので、全力を尽くして勝負していきたい」と力を込めて話されました。



5月17日から25日まで神戸市で開催される「KOBEBE2024世界パラ陸上競技選手権大会」。

同大会の男子やり投げ(視覚障害F12)の日本代表に、丹波篠山市出身の政成晴輝さんが選出されました。

5月9日には丹波篠山市役所を表敬訪問し、世界パラ陸上への抱負を述べました。

輝け丹波篠山のアスリート 丹波篠山から 夢の舞台へ



KOBE2024世界パラ陸上競技選手権大会出場
まさなりはるき
男子やり投げ日本代表 政成晴輝さん
【コカ・コーラボトラーズジャパン(株)所属】

昨年春に、神戸市で開催された「日本パラ陸上競技選手権大会」において、52歳31歳の自己ベストを更新し「KOBEBE2024世界パラ陸上競技選手権大会」への派遣標準記録を突破し、世界パラ陸上への出場を決めた政成さん。「今年で競技生活8年目に入ります。これまで簡単な道ではありませんでしたが、いつも応援してくださる丹波篠山市の皆さん、友人や家族の方々にいつもパワーをいただいで、活動を続けていくことに本当に感謝をしています」と話します。

政成さんは、小学3年生から篠山



コカ・コーラボトラーズジャパン(株)提供